B型肝炎患者の現状

看護学分野　前田優子

B型肝炎とは

* HBV（B型肝炎ウイルス）が原因となって起こる肝炎
* キャリア→慢性肝炎→肝硬変→肝がん
* 現在の感染者数は110万人～130万人

西日本地方の予防接種
1960年代

間違った集団予防接種の方法によって、日本全国に肝炎ウイルスが拡大

基本合意締結

国が謝罪をしても、患者の身体がもとに戻った訳ではありません。

肝炎患者の状況

肝炎患者の状況

身体のこと

*強い倦怠感
*合併症による苦痛
*高い再発率

肝硬変・肝がんになる原因

肝硬変

肝がん

肝炎患者の状況

経済的なこと

- 仕事と治療の両立の困難
- 医療費負担
- 生涯続く治療

肝炎患者の状況

心の
いたみ

- 現代医学ではB型肝炎ウイルスを排除するのが難しい
- 母子感染
- 周りからの差別や偏見

心のいたみ

それは、**正しい知識がない**ままに、
『感染する』という**イメージ**が強調され、様々な場面で
差別を受けたり、**偏見**の目で見られたりすることがあるからです。

私たちの願い

差別や偏見のない、安心して暮らせる
社会の実現。

二度と同じような悲劇
を繰り返さない。

B型肝炎問題に見る医療の課題

弁護士　中島康之

B型肝炎被害の本質

* 「肝炎」に対する不十分な知識
* 発症までに長期間を要する
* 感染症

検証・再発防止検討会

日本経済新聞　2013年

B型肝炎 集団予防接種で拡大

国の対策遅れ指摘

厚労省検討会

被害や副作用の情報充実求める

原告団が訴え「防止へ尽力を」

京都新聞　2013年(平成25年)6月19日　水曜日

B型肝炎拡大

縦割り行政 対応遅らす

厚労省検討会

体制改善を提言

B型肝炎問題の教訓

* 予防原則の徹底
* 「悪しき前例主義」にとらわれない

B型肝炎問題の教訓

* 予防原則の徹底

→「予防原則の徹底が不十分で、リスク認識が不足し、また、適期に更新されず、行政としての対応が適期に成されなかった国の体制と体質が今回の大きな問題」

B型肝炎問題の教訓

* 「悪しき前例主義」にとらわれない
→ある自治体の話

B型肝炎

患者の声を通して考える
「いのちの教育」
――人に寄り添う看護・行動とは？

患者講義実施のご提案

ボクらの健康を守るための予防注射だからガマンするよ！

痛かった？

痛いで

次だ…

…のはずでした

肝炎患者の「命の叫び」は、
人が生きることそのものなのです。

全国B型肝炎訴訟原告団

私たちは「いのち」に向き合う教育を行っています

在、肝炎ウイルスへの感染者の数は、日本全国で 350
にも言われていますが、その多くは、自身がウイルス
しているということも知らないままに生活をしてい
現状です。

、国の施策によって実施された集団予防接種等の
射の使い回しなどによって拡大したウイルス感染
して、一般の国民への教育・啓発が不
ことを意味しており、それによっ
しみだけでなく、患者に対
見などの二次的な被害
のです。

中で生きてい
の人ととの
者に共感す
要があり
苦しさの
していい
らい看護
学生に
自ら何
に寄り添
てもらいた

、患者の皆様が
できる社会を目指して、
を行っています。私たちの
届きますように…。

学ぶ
国の対応や組織の在り方を知る
他者の苦しみに思いを寄せる
共感する
患者の体験や思いを聞く
社会の問題を考える
「いのち」「人権」「健康」について考え行動できる人を育てる
肝炎の歴史を知る
人権について考える
自己啓発
自分や家族の健康について考える
検査受診
自分にできることを考える
行動する

大学や専門学校での講義やレクチャーの様子

看護学部の大講堂でも講義の様子

看護学校の授業で指導を行う支援看護士

苦しみを家族にも伝えることができないのはとても辛いことだと思いました。

この講義を受講した学生の感想から（抜粋）

あなたは肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか
□はい
□いいえ
□わからない

日本国内での肝炎ウイルスの感染者数は350 万人とも言われていますが、「□はい」と答えられる人は驚くほど少数です。

ママがあの子と一緒に遊んじゃダメって言ってた

いつも仲間はずれでかわいそう

良く分からないから近づかないようにしよう…

差別や偏見について

・感染が判明した当時、勤めていた会社で「あいつに近づくとうつる」「付き合わないほうがいい」等の陰口を言われて職場で孤立し、居づらくなり退職した。その後は、誰にもB型肝炎のことは話さなかった。

・恋人がいたが相手の親に結婚を反対され、やむなく身を引いた。

・B型肝炎を理由に離婚された。